

高校生
まちづくり塾

チャレンジショップ

広報9月号でもお伝えした中里高校生による「まちづくり塾」。その成果の中間発表と、チャレンジショップと称した試食品の配布が行われました。

11月5日(土)にすくすくしたまえ館では、これまでの取り組みを中間報告。考案された商品「中高ベリーパン」「中高ロール」の試食会を行いました。

それを受けて12月4日(日)には、2会場でその試食品を配布しました。パンとロールケーキどちらも町特産のブルーベリーを使っている、またパンには米粉を使用、ロールケーキにはトマ

ト使用のものも用意され、ととん中泊産にこだわった試食品です。

漬物まつりでにぎわう津軽中里駅と、歌謡ショーが行われていたパルナスで配布しましたが、試食品を食べた人たちからは、好意的な意見をたくさんもらい、また予定した120食をすべて配布し終えたこともあって、高校生たちは手応えを感じたようでした。

参加した男子高生は「中高生が作り、材料も中泊産を使っているところがポイント。町民の皆さんにぜひ知ってもらいたい」と意欲をのぞかせていました。



ストーブ列車点火祭

12月10日(土)には、津軽鉄道サポーターズクラブ主催による「ストーブ列車点火祭」。同クラブの会員約90人が参加し、にぎやかに行われました。

この点火祭は、もともと同クラブ会員の顔合わせのために行っていたものだそうで、それをいろんな団体や催しを加えて、大きなイベントにしたのが現在の点火祭です。

この日は「半島を知る“汁”」と題した鍋コンテストが行われましたが、これは渡島、下北半島、そして津軽半島の人たちが、北海道新幹線開業を見据え、何かしようと立ち上げた交流プロジェクトの産物だそうです。会員たちは、6団体のバラエティ豊かな鍋を試食し、お互いの交流を深めながら、好みの鍋にコンテスト用の投票をしていました。



駅舎漬物まつり

今年で4回目を数える漬物まつりが、12月4日(日)に行われ、訪れた約300人が買い物やイベントを楽しみました。

津鉄応援直売会が主催したこのイベント。最初にこのイベントのリーダーを務める木村てつさんが「今年もおいしい漬物ができた。今日は1日ゆくりどうぞ」とあいさつし、イベントがスタートしました。

まつりでは、漬物や農水産物の直売コーナーのほか、漬物づくりの実演コーナー、餅つき大会なども行われ、駅舎の中は買い物客の熱気に包まれていました。

